

令和七年 十一月一日実施

龍谷大学付属平安中学校

ドラゴンテスト問題

受験番号

国語

解答上の注意

- 一. この問題用紙は「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
- 二. 答えはすべて解答用紙の決められたところに書きなさい。
- 三. 解答用紙の決められたところに受験番号を書きなさい。氏名を書いてはいけません。
- 四. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
- 五. 問題内容についての質問は受けません。
- 六. 印刷が読みにくいときは手をあげて監督者を呼びなさい。
- 七. 「やめ」の合図があつたら、解答用紙をおもてに向け、問題用紙を解答用紙の上に置いて、回収が終わるまで席を離れてはいけません。（問題を持ち帰ることができません）

[illegible]

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ものがたり本との出会いは、中学生になるのを待たず、8歳くらいにはしてほしい。

脳は、起きている間の体験を、眠っている間に何度も再生して確かめ、知恵やセンスを創生し、記憶と共に脳神経回路に書き込んで定着させている。頭がよくなるのは、眠っている間なのである。

しかし、ごく普通の人類の小学生では、体験は限られている。竜の背中に乗って空を飛んだり、魔剣をあやつって悪の魔王と対決したり、秘密のパスワードを見つけて妖精の女王と話をしたりはしない（と思う）。しかし、※ファンタジーを読んで眠ったその夜は、世界の果てまで冒険してきたその疑似体験を、脳がセンスに変えられるのである。

つまり、読書は、脳に、現実の人生を遥かに※凌駕する①豊かな経験を与えてくれる至高のアイテムなのだ。もちろん、漫画やアニメ、映画、ゲームにもその効果はあるが、読書は格別。本の主人公には顔がないでしょう？

A、脳が自分事として捉えやすいのである。映画の※ハリ・ポッターシリーズを観ると、※ダニエル・ラドクリフ演じるハリーの活躍を眺めることになる。心の渴望が見える「みぞの鏡」に映るのも、彼の家族だ。B本を読み進めると、みぞの鏡を恐る恐る覗くのは自分自身で、そこには、自分の「人に言えない望み」が一瞬映るような気がしたりして、どきどきする。

そうして、半ば自分を投影したものがたりは、ページをめくるにつれて、大※スペクタクル・ロマンとなっていくのである。現実の自分は傷つかずに、「裏切られても、理不尽な目に遭っても、人を信じ、意志を貫き、真実に出逢う人生」を半ば体験して、脳内に戦略力や忍耐力を蓄えていく。

親がガミガミ叱ったり、世の理不尽を説かなくなつて、読書がその役割を担ってくれる。読書、しない手はないでしょう？

読書好きへの道は、絵本の読み聞かせから始まる。

②本を読むのは、本来は、億劫な動作なのである。読書好きといえども、ときによつては、最初の何ページかは気分が乗らず、我慢して読み進めることもある。ページを繰りながら文字を追う、意味を解析する面倒くささ……あれが、読書という動作の正体だ。C、本が誘ってくれる想像世界の面白さを知っているから、読書家はページを進める。

子どもを読書家にするには、本が楽しい世界を開いてくれることを、脳に刷り込む必要がある。それが素直にできるのが、幼少期の絵本との出会いなのである。

絵本にうまく出会わせておけば、自然にファンタジーに移行して、やがて読書家の大人になってくれる。合理的だ。

絵本との出会いに、早すぎることはない。0歳から始めてほしい。ただし、2歳半までの脳が、とっさに視覚認知できるのはシンプルなかたち。文脈理解もまだできないので、シンプルなイラストと、添えられたことばの発音を単純に楽しめる絵本がいい。

たとえば、③こつちに向かつて歩いてくるとぼけた犬の画に、「ずんずん」なんていう擬態語がついていたら、1歳児は、いつまでも笑ってくれる。オノマトペ（擬音語・擬態語）は、子どもたちの脳を刺激する。発音体感と、そのことばが指し示すところのイメージが一致するからである。

たとえば、ずんずんは、舌を前歯からはみ出すくらいに硬く尖らせ振動させる「ず」と、弾ませる「ん」の組合せ。突き進み（ず）、跳ね（ん）、突き進み（ず）、跳ねる（ん）。何かが、容赦

なく突き進んでくる感じが、口元に起こるのだ。その発音体感と、とびけた犬の鼻先が迫ってくる感じが妙に合っているのだ。脳の身体制御の領域（発音を司る場所）と、視覚認知の領域が反応し合って、子どもたちは興奮するのである。

（中略）

絵本の読み手の口で起こることと、絵本の画が妙に一致して、なんとも楽しい。その感覚は、大人の読書にもある。大人になると、誰かが読んでくれなくても、文字を見ただけで発音体感が想起される。「ずごくごくごう」なんて文字が書いてあると、その摩擦力と振動とパワーが、ありありと脳に浮かぶのである。逆に言えば、その想起力が、8歳以下の子どもには足りないのだ、読み聞かせ（発音を見せてやる）や音読（自分で発音体感を確認する）が不可欠なのだ。小学校低学年では、教科書音読の宿題が出るが、あれは、言語脳を完成させるために、とても有意義なことなのである。

絵本を選ぶときのコツは、Dを選ぶこと。日本語の場合、オノマトペ以外にも、たくさん発音体感と事象が一致することばが存在する。よかったら、絵本売り場で、実際に発音して、確かめてください。

母親が面白いと感じ、発音して楽しいことばは、幼子もそう感じる。なにせ、ことばの感性は、母親が※胎内で与えたものなのだから。母親の選択に間違いはない。

絵本が、ものがたり本になり、やがてファンタジーへと移行する。その間に、脳は、言語脳の完成期を迎える。脳に言語機能が揃うのは8歳である。

8歳近くなると、脳は、実際の発音に触れなくても、文字を見ただけで「発音体感」を想起するようになり、子どもたちは、自然に読み聞かせから卒業する。

ファンタジーへは、絵本の流れから自然に移行すればいい。脳神経回路が著しくその数を増やす脳のゴールデンエイジ（9〜12歳）を「ファンタジーに夢中」で過ごすのは、脳科学的には、たいへん理想的なことだ。圧倒的で半端ない超人生体験を脳に与えられる。

この時期を、答えが決まっている受験勉強に費やすなんて、もったいなくてしょうがない、と私は思ったので、一点の迷いもなく中学受験はパスした（もちろん、読書をしながら受験勉強もこなす器用な脳もあるので、一概には言えない。我が家の息子は不器用だったので、この結論に達した）。

※ナルニア国物語、※指輪物語、ハリー・ポッター……挙げていくだけでも、わくわくする。この時期の我が家の息子の心を一番奪ったのは、※バーティミアス・シリーズだ。※英国の若い（執筆当時）男性作家が書いた本で、大人男子でも楽しめる。こうして、E↓F↓本格社会派小説（※ミステリーや※SFの類いでもいい）の道を歩めば、脳はかなりの体験とセンスを積んで大人になれる。理系の科目が高等レベルになってもすんなりステップを上げられる。そう考えると、赤ちゃん期の絵本、手が抜けないでしよう？

（中略）

ちなみに、我が子が既に幼児期を過ぎてしまっていて、うまく読書家にしてあげられなかったという方。大丈夫、まだまだ取り返しがつく。

親が本をむさぼり読む姿を見せてやれば、ある程度効果がある。「時間の隙を見つけて夢中になるほど読書は面白いんだ」という無意識の刷り込みになるからだ。高校生くらいまではこの手が使える。大学生以上の脳の戦略力は、読書力以外のことでつけばいい。※『英雄の書』（ポプラ社）をぜひご参考に。母親自身が本嫌いなら、なおいつそのこと、ここで「親が

本を読まない↓子も本を読まない↓孫も本を読まない」という負の連鎖を食い止めなければ。読むふりだけでもかまわない。息子の将来の戦略力のために女優になろう。

（黒川伊保子 『子育てのトリセツ 母であることに、ときどき疲れるあなたへ』）

※（文中のことばの意味）

ファンタジー：空想的な物語。

凌駕する：他のものを上回る。

ハリー・ポッターシリーズ：イギリスのファンタジー。

ダニエル・ラドクリフ：イギリスの俳優。

スペクタクル・ロマン：大がかりな長編小説。

胎内：子ができた母親のおなかの中。

ナルニア国物語：イギリスのファンタジー。

指輪物語：イギリスのファンタジー。

バーティミアス・シリーズ：イギリスのファンタジー。

英国：イギリスのこと。

ミステリー：推理小説。

SF：科学的な空想にもとづいた作り話。

『英雄の書』：筆者が本文を書く前に書いた本。

問1

A C にあてはまることばとして、ふさわしい

ものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア たとえば

イ 一方

ウ だから

エ しかし

問2

——線①「豊かな経験」とありますが、これにあてはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 恐竜きょうりゆうの生きる時代にタイムスリップして生活すること

で、多くの生き物と共存できる環境かんきやうについて考える経験。

イ 宇宙からやってきて人間界にまぎれて生活している人と会って、宇宙の仕組みについて教えてもらう経験。

ウ 病気で弱っている飼い犬の気持ちを理解するため、動物と会話できる人に協力してもらう経験。

エ かつては病院だったという心霊スポットに友人と訪れて、心霊写真が撮れるかどうか試ためしてみる経験。

問3

——線②「本を読むのは、本来は、億劫おっくうな動作なのである」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 読書は、たくさん文字を追って意味を考えなければならぬ手間てまのかかるものということ。

イ 読書は、いとも簡単に想像の世界に入りこむことができる面白いものということ。

ウ 読書は、普段ふだんの生活では身につけることが難しい戦略力や忍耐力を養える便利なものということ。

エ 読書は、親や先生から読みなさいと強制されておこなう場合が多いものということ。

問4 ———線③「こつちに向かつて歩いてくるとぼけた犬の

画に、『ずんずん』なんていう擬態語がついていたら、1歳児は、いつまでも笑ってくれる」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 舌を前歯からはみ出すくらいに硬く尖らせる動きをしなから「ずんずん」と言うのが面白いから。

イ オノマトペの発音体感が脳の身体制御の領域を刺激し、自然と興奮してしまうから。

ウ 絵本を読む人の口元で起こることと、絵本のイラストが妙に合っていて楽しくなるから。

エ 書いてある文字と、そのことばが示すイメージが完全に一致していることに驚くから。

問5 D にあてはまることばを文中から十字

でぬき出しなさい。

問6 E・F にあてはまることばの組み合わせとして、

最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|--------|---|--------|
| ア | E | 映画 | F | ファンタジー |
| イ | E | ものがたり本 | F | 絵本 |
| ウ | E | 絵本 | F | 受験勉強 |
| エ | E | 絵本 | F | ファンタジー |

問7 本文の内容を説明したものとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ファンタジーを読むことで養える力について説明したうえで、オノマトペをふくむ絵本の読み聞かせをしておくことで自然にファンタジーを読むようになるとしている。ただし、母親自身が読書をする習慣がない場合、子どもを読書家にするのは難しいと考えている。

イ 脳科学の観点から読書が脳の成長に欠かせないものだと強調したうえで、0歳から絵本の読み聞かせを始めることで脳に刺激を与えることができると説明している。さらに、ミステリーやSFなどを読めるようになると、理系科目の学習にもつながると伝えている。

ウ ものがたり本の読書をすすめる理由を示したうえで、ものがたり本の前に、幼い頃から絵本の読み聞かせをしておく、スムーズに移行できることを教えている。そして、筆者の経験をふまえて、母親として子どもを読書家にするためにできることをアドバイスしている。

エ なぜ8歳までにファンタジーと出会う必要があるのかを説いたうえで、ファンタジーと出会う以前にオノマトペ絵本と出会う方が効果的だと述べている。そこで発音体感を身につけておくことが、大人になってからも読書家であるためには重要だと説明している。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学校六年生の時だった。家庭科で調理実習の時間というのがあり、「目玉焼き」を習った。五、六人のグループごとに、コンロが一つ、フライパンが一つ。ジャンケンか何かで順番を決め、一人ずつ挑戦する。残りの四、五人から見守られる中、手際よく焼きあげるのはA 難しい。モタモタしているうちにフライパンから煙がB 上がったたり、白身がチリチリに焦げてしまったり……。そのたびににぎやかな笑い声。うまくいけば拍手喝采。C 自分の番が近づいてくると、ドキドキする。

私は、小さい時から手先がほんとうに不器用で、この日は朝から憂鬱だった。うまく焼けるだろうか、という以前の大問題——うまく割れるだろうか、という不安を胸に抱きつつ、登校した。

すき焼きなどで生卵を割るとき、私はよくぐちゃっと黄身をつぶしてしまう。もちろん、すき焼きなら支障はないのだが、目玉焼きの場合はちよつとまずい。ちよつとどころか、致命的である。ぐちゃつとなったらどうしよう……そればかり気にしていたら、昨日は卵の夢を見てしまった。

不幸なことに私のグループは人数がやや多く、最後の私がD とフライパンの前に立つころには、他グループからの冷

やかし組も集まってきて、すごいギャラリイになってしまった。卵を割りそこねた子はまだいないらしいことが、さらにプレッシャーをかける。すっかり舞いあがってしまった私。① ええ

いとはばかり卵をフライパンのふちに打ちつけ、そのままぐしゃつと握りつぶすような格好になってしまった。わあつと湧きあがる声。こういう時、子どもは残酷である。ピーピーと口笛を吹く子もいれば、手を打って② はやす子もい

る。その後どんな目玉焼きができあがったのか全く覚えていない。見届ける前に② 私の目玉がうるんでしまった。家に帰ってこの「事件」のことを母に話していると、また涙が出てくる。

③ 落ち着いてやれば何でもないことなのに、ばかね、ほら、やってごらん」

笑いながらフライパンと卵を出してくる母。うわっもう見たくもないと思いつつ、一緒にコンロの前に立った。おそろおそろ卵をフライパンのふちにつける。ぺちつと殻にひびが入るだけで割れなかった。ぺちつぺちつ……うーん。もどかしくなつていきなり力をこめた瞬間、ぐしやつ——またやつてしまった。流れだす黄身を、E 的な思いで見ている私に、明るく母が言う。

「さあ、おいしい炒り卵を作ろう」

フライ返しを菜箸に持ちかえさせられて、ほら、ほら、早くかきまぜて、と急かされる。

「このへんでおしょう油を入れると、いい香りがするのよ」

できたての、ほわほわの、炒り卵。——おいしかった。負け惜しみではなく、目玉焼きよりもずっと。なんだか元氣が出てきて、もう一度やってみようかな、と思う。

「フライパンに火をかけているとあせつちやうから、まずお茶碗に割ってごらん」

不思議なほど、楽な気持ち。今度は、うまくいった。【ア】

「もしここで失敗したら、オムレツにしちゃえばいいの」

ありあわせのハムとミックスベジタブルを混ぜてその場で母が焼いてくれたオムレツ。これがまたおいしかった。夢のように。【イ】

思えばあれが、母と一緒に台所に立って何かを習った最初の

ことだった。今でも生卵を割るときは、家庭科室での光景がふつと頭をよぎる。幼い心にうけた傷は深い。が、一方でこのできごとは、料理に興味を持つきっかけにもなった。④卵一個で母が見せてくれた魔法。

以来ちよこちよこ台所に入りこんでは、母の手つきを眺めるようになった。あたりまえに食べていた毎日のおかずが、新鮮に感じられたものである。【ウ】

「お米は洗うんじゃないの。とぐって言うでしょ。磨いてつやを出すような気持ちでね」

しゃつかしゃつかと力を入れてといだお米と、水で洗った程度のお米とでは、炊きあがりの味が全然違う。

「お茶は最後のしずくがエッセンス。この数滴を残さないのが肝心よ」

「見えないところの手間が大切。ここで手を抜くとだめね」

カレーライスの玉ネギは、甘みがでるまでゆっくり炒める。あくは丁寧にとる。フライドポテトのじゃがいもは、揚げる前にさっと茹でておく。もやしのはひげ根は必ずとる……。

その日その食卓で消えてゆくお惣菜に、手間ひまかけること。その苦勞を⑥ことさらのように言うのではなく、むしろF話してくれた。あの母のここに顔が、私を料理好きにさせたのかもしれない。

「ひたひたの水」「さっと炒りつける」「耳たぶぐらいの柔らかさ」「ひと呼吸おいて火を止める」——料理の本にしばしば出てくるこういった表現は、初心者にはなかなかピンとこない。中学・高校時代、親子で台所に立つ時間の中で、だんだん感覚としてわかるようになった。

きんぴらごぼうを作りながら、私が生まれる前の夫婦喧嘩の話聞いたこともある。「きんぴらごぼうは嫌い？　って聞いたら、いや別についてお父さんは言ったのね。それなのに食卓に

出したら一口も食べないのよ。ひどいと思わない？」「そのくせ、実は今食べようとしていたところだ。箸をつける順番までとやかく言うな、ですって」まことに⑤他愛ないエピソードである。夕食時、母と私の好奇の視線に気づく様子もなく、父は淡々ときんぴらごぼうを食べていた。もう夫婦喧嘩のことなど、忘れてしまったのだろう……。

料理以外のいろいろな話もした。ゆげの立つお鍋の前なら、どんなことでもスムーズに相談できるような気がした。【エ】

母と娘が台所にゆっくり立つというような時間は、慌ただしい今の社会の中で、どんどん少なくなってきたというようだ。母親だって忙しい。娘だって忙しい。デパートのおかず売場は充実しているし、おいしいレストランもたくさんある。けれど、⑤あの時間の豊かさは、何ものにもまさるものだった。一人暮らしも十年になろうとする今日このごろ、あらためて思う。

（俵万智『りんごの涙』）

問1 線⑤～⑥のことばについて、文中における意味として最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

⑤ はやす

- ア 音の調子を整える
- イ 声を出してあざける
- ウ 一斉にほめたてる
- エ 強気になめてかかる

⑥ ことさらのように

ア わざとらしく、改まったように
イ 気持ちを落ち着かせて、おだやかに
ウ 元気づけて、にぎやかに
エ 面倒くさく、てきとうに

⑦ 他愛ない

ア 他人事で、愛情の感じられない
イ なすべや方法がなく、何でもない
ウ おもしろさがなく、感動できない
エ 深い意味がなく、何でもない

問2

A D にあてはまることばとして、ふさわしいものを、次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア だんだん イ なかなか ウ なみなみ
エ もじもじ オ もうもう

問3

——線①「ええいとはかり卵をフライパンのふちに打ちつけ」たのはなぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 卵をうまく割る自信が持てず、失敗してもいいという気持ちになったため。
イ 自分にプレッシャーを与え、苦しめる卵に憎しみを持つため。
ウ 卵を割ることに不安とプレッシャーを感じて、力が入ってしまったため。
エ 卵をうまく割る自信があるので、まわりの子どもたちに手本として見せるため。

問4

——線②「私の目玉がうるんでしまっていた」とありますが、「私」のどのような様子を表現していますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 喜びのうれし涙が思わずあふれ、自分の目玉が湿りを帯びている様子。
イ くやしく悲しくて、自分の目玉の前に涙がたまってしまった様子。
ウ プレッシャーのため、目玉焼きの白身のように頭がまっ白になってしまっている様子。
エ 驚きのあまり目を閉じてしまつて、まぶたに目玉焼きが浮かんでいる様子。

問5

——線③「落ち着いてやれば何でもないことなのに、ばかね、ほら、やってごらん」と言った「母」の気持ちとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 落ち込んでいる自分の子どもに対して、なんとか励まそうとしている。

イ 何をやっても不器用な自分の子どもに対して、情けなく思っている。

ウ やる気のない自分の子どもに対して、料理の基本を教えるなければならないと感じている。

エ 料理も満足にできない自分の子どもに対して、腹立たしく思っている。

問6

E にあてはまる最もふさわしいことばを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 絶望 イ 現実 ウ 積極 エ 連鎖^{れんさ}

問7

本文には次の一文がぬけています。あてはめるのに最もふさわしいところを【ア】〜【エ】の中から一つ選び、記号で答えなさい。

折にふれ、母はいろいろなことを教えてくれた。

問8

次のア〜オの「私」の心情がわかる表現を、過去のものから順に並べかえなさい。

ア 自分の番が近づいてくると、ドキドキする。

イ 不安を胸に抱きつつ、登校した。

ウ 卵の夢を見てしまった。

エ すっかり舞いあがってしまった。

オ 母に話していると、また涙が出てくる。

問9

——線④「卵一個で母が見せてくれた魔法^{まほう}」とありますが、どのようなことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 割るのを失敗した卵の使い方を教えてくれただけでなく、正しい卵の割り方を何度も教えてくれたことによつて、不器用な「私」がとうとう卵を割ることに成功したと。

イ 卵の割り方を教えただけでなく、割るのに失敗した卵を使って炒り卵やオムレツを作って見せることで、「私」の気持ちを楽にした上に、料理に興味まで持たせてくれたこと。

ウ それまで知らなかった卵料理の数々の作り方を「私」に教えてくれただけでなく、台所の正しい使い方まで教えてくれたこと。

エ 卵の正しい割り方や料理の仕方だけでなく、台所での楽しい過ごし方を教えることによって、料理の本に出てくる表現を感覚として教えてくれたこと。

問10

Fにあてはまる最もふさわしいことばを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 退屈^{たいくつ}そうに
イ 天^{てん}にものぼるように
ウ 悲しそうに
エ 嬉し^{うれ}そうに

問11

——線⑤「あの時間」とありますが、それはどのような時間ですか。文中から十字以内でぬき出しなさい。

問12

本文の内容にあてはまるものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 私は幼いころから病弱であったため、料理をうまくつくる機会がとれなかった。
イ 調理実習の時間で目玉焼きを作るのに失敗したことが、その後の人生を生きる自信につながった。
ウ 自分だけが卵を割ることに失敗し、みんなに笑われたために、その後、学校に行くのがいやになってしまった。
エ 母は目玉焼きの作り方をはじめ、いろいろな料理を教えてくれたので、私は料理に興味をもつようになった。

次のページへ問題は続きます。

三 ことばに関するあとの問いに答えなさい。

問1 次の各文の主語にあたる部分を一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、主語がない場合は×で答えなさい。

- ① ア私はイ毎朝ウ自転車でエ会社へオ行く。
② ア庭にイ白いウ大きなエ花がオさいた。
③ ア兄のイ話はウいつでもエとてもオおもしろい。
④ ア北海道のイ牧場にはウたくさんのエ乳牛がオいる。
⑤ アあそこにイ見えるウ建物がエ有名なオ西本願寺です。
⑥ ア食いしんぼうのイ弟さえウそれをエ食べなかった。
⑦ アいつもイ大変ウお世話にエなっております。

問2 次の四字熟語の□には数字があてはまります。
□にあてはまる数字を考えて、
てはまる漢数字と、
□にあてはまることを漢字二字で答えなさい。

・ a □ 日 □ 秋 □ b □ 中 □ 九
・ □ 石 □ c □ 鳥 □ 寒 □ d □ 温
・ □ 捨 □ e □ 入
● a + b || f
c × d | e || g
f □ 月 □ g □ 日は、 h □ の日（祝日）です。

問3 次の①～⑥の熟語の組み立ての説明として、ふさわしいものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 左右 ② 低温 ③ 未知 ④ 国营 ⑤ 高校
ア 似た意味の組み合わせ イ 上が下を修飾
ウ 上が主語、下が述語 エ 上が下を否定
オ 長い語を省略 カ 対義語の組み合わせ

④ 次の――線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

- ① 不正がハツカクした。
- ② 劇団で舞台のエンシュツを担当する。
- ③ 限りあるシゲンを大切にしましょう。
- ④ 役所にトドけ出る。
- ⑤ キュウキュウ車の適正利用を呼びかける。
- ⑥ 新潟県には穀倉地帯が広がっている。
- ⑦ この海域は潮の干満がはげしい。
- ⑧ あれこれと画策する。
- ⑨ 均一になるようにかき混ぜる。
- ⑩ 茶道の作法をお稽古する。

これで問題は終わります。

